

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0471200329
法人名	有限会社 油井企画
事業所名	グループホーム にshidate
所在地 (電話番号)	登米市迫町字佐沼西館56-11 (電話) 0220-21-5636
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 19年 10月 22日

## 【情報提供票より】(19年 10月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14 人, 非常勤 人, 常勤換算 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/改築
建物構造	A棟 (鉄骨一部木造) B棟 (準耐火木造平屋) 造り 2階建ての 階 ~ 1階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	8 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 81.5 歳	最低	60 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立佐沼総合病院、みなみかた歯科
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは住宅街に位置し、家庭的な雰囲気作りがなされている。公園や自然に恵まれ、日常的に散歩や買い物が行われている。外出の機会を多くし、閉じこもりがちにならずに社会との交流を図りながら楽しい生活を送っていけるよう取り組んでいる。広いバルコニー、多目的ホールは地域に開放し活用されている。夏祭りは家族や近所の人達(特に子供たちが多く)が100人以上が集まり盛会に行われた。職員は「その人らしく」をモットーに入居者が自分の家に住んでいる時と同じ状態を実現するために活発に意見交換をしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①「緊急時の対応、周知、訓練」では夜間想定訓練をしていなかったが、4月には入居者も含め夜間想定訓練をしている。次回は近所の人も含め実施の予定である。</p> <p>②「相談、苦情受付の明示」では重要事項説明書に第三者委員が明示されていなかったが、現在、運営推進会議メンバーの民生委員に交渉中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票を事前に全職員に配布して、各職員の意見を聞き、まとめたあとミーティングをして検討している。評価で見出された課題については、次回のミーティングや運営推進会議で取り上げ改善に向け取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>今年の7月初めの会議が開催され、今月が2回目の開催予定である。前回の会議内容は「運営推進会議発足に当たり今後の予定」が提案され、説明に対する質問という形になっている。次回は、自己評価、外部評価の結果で明らかになった課題について報告し、意見交換を行う予定である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員に言いやすいように契約時に説明している。また意見箱を玄関に備えているが、意見はない。重要事項説明書に市町村の相談窓口の電話番号の表示と第三者委員を運営推進会議の委員をお願いし、外部にも意見、不満、苦情を表せる場があることを繰り返し説明していくことをお願いしたい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>夏祭りには家族や地域の人(特に子供たちが多く)が100人以上集まり盛会に行われたり、近くの中学校の生徒が職場体験に来てくれたり、踊りや歌などのボランティアの人達が毎月来てくれる。また近所の方も散歩の途中寄ってお茶を飲んでいくなど地域との交流がある。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在の理念は「その人らしく」をモットーに、ここで暮らしていても家に居た時と同じ生活をしていくことが出来るように安全とサービスを提供しているが、設立当時のものでまだ見直しがされていない。	○	地域密着型サービスの意義を考え地域との関係性を強化した理念を管理者、職員全員で作るようお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送り、毎月1回の定例ミーティングで全職員が出席し、理念の実践に向け、月ごとに具体的な重点目標を定め取り組んでいる。月ごとの目標は各棟ごとに食堂に掲示し、日々実践を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人として町内会に加入していないが、社長個人として加入している。ホームの夏祭りには家族、地域の人(特に子供たちが多く)が100人以上集まり盛会に行われたり、地域の祭りにはみこしがホームまで入って来たり、踊りや歌などのボランティアが毎月来るなど地域との付き合いも深い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を事前に全職員に配布して、意見をまとめたあとミーティングをして検討している。評価で見出された課題については、次回のミーティングや運営推進会議で取り上げ、改善に向け取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の予定であるが、これまでに1回(7月)開催された。今月(10月)末に2回目の開催予定である。メンバーも区長、民生委員、市役所職員、家族代表などが出席し、今後の会議での意見をサービスの向上に活かせるようお願いしたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表者・計画作成担当者が主に市福祉課と行き来するように努めている。市主催の認知症の勉強会などに出席したり、市の担当者に相談をしているが、事業所側から積極的に理解を求める働きかけをしていない。	○	市の担当者に対し、事業所側から積極的に情報を提供し、市から協力(例えば管理栄養士による専門的な立場からの指導助言等)を得られるように働きかけることをお願いしたい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会に来た時に入居者の状況を伝えている。来訪が困難な家族に対しては電話で話している。金銭管理は毎月1回現金出納帳(写)を請求書と一緒に送っている。「ホーム便り」はまだ発行していないが、近く発行の予定である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族などが意見、不満、苦情を管理者や職員に言いやすいように契約時に説明している他、重要事項説明書に苦情相談機関を掲載しているが、市町村の相談窓口と第三者委員の相談窓口が掲載されていない。	○	重要事項説明書に市町村の相談窓口の電話番号の掲載と第三者委員を掲載し、外部にも意見、不満、苦情を表せる場があることを繰り返し説明することをお願いしたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員のA棟、B棟間異動は最小限に抑えている。新規採用や異動があった場合はベテラン職員の棟間異動で対応し、入居者へのダメージを防止している。担当職員交代時には家族に説明している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一人1回くらいの研修機会がある。交換研修は年3回あって本人の希望を聞いて参加させている。研修結果は報告書やミーティングで周知を図っている。介護福祉士の実地研修にはシフトの中で支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	G・H連絡協議会北部ブロック、ケアマネージャー協会登米支部に加入し、迫地域ネットワーク会議や高齢者在宅交流研修などに参加している。また近くのグループホームの人達とも勉強会を続けサービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に管理者と相談員が入居予定者の家を訪問し、話を聞いたり、見学に来てもらい入居者同士でお茶を飲んでもらったりし、納得して来てもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	朝は入居者が全員で窓、玄関、床などの掃除をしたり、食事の盛り付け、後片付け、洗濯物の干し、たたみ、買い物、畑仕事をしている。入居者にとって職員はお嫁さんであったり、お孫さんであったりと家に居ると同じ状態で過ごしている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との日々の関わりの中で何をしたいか、何処へ行きたいかなどその人の思い、暮らし方の希望、意向などの把握に努めている。日々の生活状況、気付き、思いは個人ごとの介護カルテに記載し、情報の共有化と月1回のカンファレンスにつなげている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全員が入居者一人ひとりについて、生活援助見直しシートに意見を記載し、それを計画作成担当者がまとめ、月1回開催カンファレンスで意見を出し合い、課題抽出シートにまとめ、介護計画の見直しを行っている。見直し結果は家族に説明し、同意を得ている。見直しまでに至らない項目は課題抽出シートに注意喚起事項として記載し、共有化している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは定期的には月1回のカンファレンスで入居者3名分を行い、3ヶ月周期で見直しを行っている。また身体状況や生活状態急変などに気付いた場合、状況に応じて都度見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や特別な外出、外泊など必要な支援はすべてホームで対応している。近隣の高齢者が状況に応じてショート・ステイやデイ・サービスを利用することは現在では出来ないが、空室があれば支援する予定である。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医、医療機関に受診できるよう支援している。受診結果は家族への連絡も行っている。基本的には職員が同行するようにしているがむづかしい病気の場合は家族も一緒に対応している。各人の介護カルテにも青字で受診状況が記載されており把握し易い配慮がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した入居者をホーム側が出来る限度まで介護した実施例はあるが、ホームとして重度化や終末期に向けたあり方、対応についての文書化した方針は定めておらず状態に合わせた話し合いを適宜関係者間で行っているのが現況である。	○	重度化や終末期に対してホーム側で出来ること、出来ないことを見極めて対応方針を定め、家族、医療機関との役割分担、状況変化時の対応などの話し合いを行い、方針の共有、文書化を進めてほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の了解を得ないで居室に出入りをしていない。個人記録やメモを人前に放置していない。イベントの時の写真や文書など個人情報の公表については誓約書を取り交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、入浴、食事時間、散歩など入居者のペースで行えるよう柔軟に対応している。朝遅く起きて来た人に対する食事は、自分の部屋でゆっくり食べてもらっている。また入浴については昼食後から午後6時ころまでに全員が入浴している。散歩は毎日行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好むものをメニューに取り入れており、食事は職員も一緒に同じ食卓を囲み同じものを食べている。また食事の準備、後片付けは入居者の力を活かしながら一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望時間に合わせ入浴は毎日昼食後から午後6時ころまでに全員が入浴している。夜の入浴を希望する人や、入浴を拒む人はいない。好きな時間に気持ちよく、くつろいで入浴している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	折り紙、縫い物、編み物、塗り絵、将棋などの得意な人、新聞を取りに行く人、畑仕事をする人、洗濯物を干す人、たたむ人それぞれが役割を持ち、楽しみごとが作り出せるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は日常的な散歩や、買い物、外食、展示会、日帰り温泉旅行、花見など一人ひとりの希望にそって戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけない、フロアに死角を作らないように透明のアコーディオンドアを付けて見守りをしている。もし一人で外出した時には近所の人に教えてくれるようお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。避難訓練は年2回、内1回は夜間を想定した訓練をしている。次回は地域の人々の協力を得て行う予定である。避難場所の確認、護送方法の確認を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量のチェックをしている。買い物をする時に一人ひとりの趣向を把握している。栄養バランスやカロリーチェックは定期的に市の管理栄養士や保健師に点検してもらうようお願いしたい。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や日差しがまぶしかったり暗かったりしない。窓の開け閉めや空気清浄機の使用で臭気や空気のよどみはない。冬でも1日2~3回は換気をしている。個々の居室、共用空間など適温管理を行っている。自分の家に住んでいるように居心地よく過ごせる工夫、配慮をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には写真や飾り物が貼ってあったり、仏壇や机、テレビなど使い慣れたものや好みのものがあり、居心地のよい場所となっている。		